

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府宇治市槇島町十八38番地								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社ヤクルト本社 京都工場 工場長 土井明文								
事業者の主たる業種	乳製品製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	工場内に「環境対策委員会」を設置し、この施策のもと、事業活動に伴う環境問題に積極的かつ継続的に取り組む。地球温暖化防止のため電力およびガス燃料の節減を推進する。（毎月の委員会開催と環境マネジメント実施計画を作成。）								
推進体制	工場長を委員長とする環境対策委員会で実施計画の策定、進捗管理を行う。（環境対策委員会で環境マネジメント実施計画を作成し、二酸化炭素排出量の削減を進捗報告した。）								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	株式会社ヤクルト本社 京都工場内							
	取得年月日	平成11年10月29日							
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	平成21年度	温水機器	昼間、温水ヒーターから蒸気による加熱に切り替え電力量を削減する。						
	平成22年度	照明機器その他	照明器具を省エネタイプに交換して、電力量の削減をする。						
	平成22年度	製造工程	均質機の待機時間の短縮による電力量の削減する。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	3,237 t	3,204 t	-1.0 %	3,696.3 t	14.2 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	8 t	8 t	0.0 %	8.1 t	1.3 %			
	排出合計	*1 3,245 t	*2 3,212.0 t	-1.0 %	*4 3,704.4 t	14.2 %			
	実績に対する自己評価	計画期間中に1%以上の温室効果ガス削減を目指し電力量削減を中心に取組んだが、生産設備の増設・生産量増加の対応のため、実績が増加となった。（20年度 洗浄機の導入、21年度 新製品導入テストおよび検査機器導入、22年度 新製品導入および東北地方太平洋沖地震のため、休日生産実施と生産量の増加）							
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
		二酸化炭素換算 生産量(千kl)	117.4 t-CO2/千kl	116.3 t-CO2/千kl	-1.0 %	137.0 t-CO2/千kl	16.7 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
	実績に対する自己評価	計画期間中に1%以上の温室効果ガス削減を目指し電力量削減を中心に取組んだが、生産設備の増設・生産量増加の対応のため、実績が増加となった。（20年度 洗浄機の導入、21年度 新製品導入テストおよび検査機器導入、22年度 新製品導入および東北地方太平洋沖地震のため、休日生産実施と生産量の増加）							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3 t		*5 t		t	
	差引排出量	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
（排出合計－削減等合計）	*1 3,245.0 t	(*2)-(*3) 3,212.0 t	-1.0 %	(*4)-(*5) 3,704.4 t	14.2 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	工場周辺地域の清掃活動（クリーンアップ運動）を3回/年実施した。								
特記事項	なし								

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。